

Title	土方巽アーカイヴ：過去展覧会における視座
Sub Title	Hijikata Tatsumi archive : viewpoints of past exhibitions
Author	石本, 華江(Ishimoto, Kae)
Publisher	慶應義塾大学アート・センター
Publication year	2021
Jtitle	慶應義塾大学アートセンター年報/研究紀要 (Annual report/Bulletin : Keio University Art Center). Vol.28(2020/21), ,p.128- 142
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究紀要
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11236660-0000028-0128

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

土方巽アーカイヴ 過去展覧会における視座

石本 華江
所員、講師（非常勤）

はじめに

慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴ（以下、土方アーカイヴ）は1998年の設立以来、23年間に9回の展示活動を行ってきた。アーカイヴ活動の日々はデータ入力や資料貸出、問い合わせ対応などの地味で地道な業務が大半を占めるものの、だからこそアーカイヴから行う情報発信は非常に重要であると考え。特に展覧会はテーマや企画意図に沿って一つの視点を提示でき、また成果として評価しやすいため、主要な発信行為である。しかしそもそもどのような情報を、どのように発信してゆくのか、様々な見地からの議論が必要である。

本論考は過去9回にわたる展示を総括し、今後の視座を得るための足掛かりとすることが目的である。これからの発信のあり方を再考するにも、展覧会またはイベントに偏りがちな「発信」/「評価」のあり方を問いかけるにしても、過去の展示を一望し、過去を辿ることで現在、そして未来へと考える道筋としたい。

1. 土方巽アーカイヴ開設記念《四季のための二十七晩》をめぐって資料《四季のための二十七晩》

1998年11月28日-12月15日

だからそば屋の十一番目の末子は鮎ではなく「キンカクシに歯を立てる」—吉岡実（聖あんま語彙篇 吉岡実『土方巽頌』筑摩書房、1987年）

土方巽の十三回忌である1998年、土方アーカイヴの開設を祝い、土方舞踏における記念碑的舞台となった《四季のための二十七晩》^{*1}を様々な角度から再検証する展示が行われた。北新館ラウンジ・ホワイエと図書館（新館）1階展示ケースの二箇所にて開催され、チラシ、ポスター、舞台写真、衣裳など、土方舞踏の転換点となった公演の資料に加え、前哨となった〈長須鯨〉^{*2}の稽古風景を含めて紹介する展示であった。またオープニング・セレモニーとして「土方巽アーカイヴ開設記念《四季のための二十七晩》をめぐって舞踏『土方巽に捧ぐ』」と題し土方夫人の元藤燐子と大野慶人の出演するパフォーマンスも行われた。さらに元藤燐子によるワークショップを通じて舞踏体験の場を提供し、映像記録『疱瘡譚』（大内田圭弥監督）を上映、またシンポジウム「土方巽アーカイヴ開設記念《四季のための二十七晩》をめぐって『土方巽と舞踏譜 私にとってのディスクール』」として石井達朗先生を司会に、舞踏家である和栗由紀夫、小林嵯峨、三上賀代を招いて舞踏譜についての講演を行った。^{*3}

現代芸術に関する「研究アーカイヴ」の構築について、アート・センターの関心を提示する最初の試み^{*4}として土方アーカイヴは構築された。その初年の展示として、現在まで続く基本理念を具体化させてゆく「第一歩」となる意欲的な企画であった。「アーカイヴ」は、ある特定の主題に関するドキュメント（一次資料）を収集・保存・管理することを使命とする。加えて研究文献（二次資料）の収集・蓄積と研究情報検索の具体化を図る「研究アーカイヴ」であること、多様なデジタルメディアやシステムを活用する「デジタルアーカイヴ」であること^{*5}。これらの理念を示し、また土方舞踏の研究においても重要な公演の概要を紹介する内容であった。

カタログ『「土方巽アーカイヴ」開設記念＜四季のための二十七晩＞をめぐって』^{*6}（B5変型、80頁、在庫僅少）を発行している。

2. <バラ色ダンス>のイコノロジー ——土方巽を再構築する

2000年12月2日-8日

土方巽との会話はまるで死霊と話をしているようだった。土方巽は水が枯れたポンプに流す誘い水であった。—横尾忠則『突然変異のポスター』『美術手帖』1986年5月号

土方アーカイヴの活動3年目になる2000年には、土方の60年代における代表作<バラ色ダンス>^{*7}を取り上げた展示を行った。中西夏之、横尾忠則、加納光於ら同時代の前衛アーティストが、さまざまな形で参加し作りあげた、舞踏と美術の実験的コラボレーションを紹介。<緑の右手とピンクの左手>と中西夏之が作品タイトルでも表現しているように、舞台のキー・コンセプトとなった「ピンク」と「緑」の色彩を中心として、<バラ色ダンス>の生起する奔放かつ流麗なプロセスを解明する資料展を開催した。また「出帆の集い」として、イベントも企画。フィルム上映『稽古場の土方巽』（小川伸介監督『1000年刻みの日時計』より）『肉体の叛乱』（撮影：中村宏）の他に、前田富士男先生を司会に森下隆、内田まほろによるデータベース運用の具体的なデモンストレーションや土方と舞踏、企画資料展に関するレクチャーを行った。2000年4月に竣工した東館2・3階北部分に新設された展示スペースで初めての企画であり、一週間の会期中、学生を中心に525人の来場者があった。^{*8}

なおカタログ『<バラ色ダンス>のイコノロジー ——土方巽を再構築する』^{*9}（B5変型、46頁、在庫あり）を発行して

いる。同時に土方アーカイヴのカタログレゾネ『土方巽〔舞踏〕資料集第1歩』（B5変型、70頁、在庫あり）が編集・刊行された。^{*10}

3. アート・アーカイヴ資料展Ⅰ ノートする四人——土方、瀧口、ノグチ、油井

2006年11月28日-12月9日

優れたアーティストはすべて例外なく、立派なアーキヴィストである。（展覧会関連企画紹介文より）

「ノート note」をキーワードにアート・センターの四つの研究アーカイヴ（土方巽、瀧口修造、ノグチ・ルーム、油井正一）の資料を紹介する展示であり、現在まで続くアート・アーカイヴ資料展シリーズの第一回となる。関わる領域や所蔵・所管しているマテリアルの位相も異なる四つのコレクションをひとつのキーワードを与えることによって、横断的に関連づけて思考することを目的とした企画であった。作品の生成過程、自己整理の行為を「ノートする」と捉え、「過程」を知るためにノートを解読すること。これはアーカイヴの大きな魅力であり、アーカイヴならではの発信としてノートした作者/表現者との出会いを誘発する展覧会であった。^{*11}

土方の「ノート」と言えば、舞踏譜の元となったスクラップブックであろう。世界でも稀有な作舞法を編み出した土方のアイデアソースを知ることができる重要な資料である。土方の舞踏譜（スクラップブック及びスクリプトシート）に加え、山本萌、玉野黄市の舞踏ノート、加えて「動きのアーカイヴ」^{*12} プロジェクトより和栗由紀夫と山本の実演映像を展示した。実際の身体表現とノートである舞踏譜を関連づける展示を展開し、舞踏譜を多角的に紹介した。

なおレクチャー&ディスカッション「アーティストはアーキヴィスト！」として土方とも関係の深い中西夏之にレクチャー&トークを依頼し、当時アート・センター所長であった前田富士男先生を司会に後藤文子先生、西川尚生先生と共にパネル・ディスカッションを行ったことをここに付記しておきたい。中西の創作過程を知ることができる、貴重な機会であった。^{*13}

4. アート・アーカイヴ資料展Ⅱ 1978

2008年1月12日-25日

生存とはしよせん、肉体のけいれんの連続でしかない。この実存に日本の土俗のもっとも深いところから生まれた形を与えたかれらに、満員の観衆は拍手さえ忘れるほどの強烈な放

射能を浴びていた—田淵安一（『間展』評『読売新聞』1978年11月16日夕刊）

前年に引き続き、アート・センターが所管するアーカイヴを一つのテーマ設定で関連づけ、展覧会として成果発表した。3つのコレクション（土方、瀧口、油井）を横断的に関連づけて考えるキーワードとして「1978」という年を取り上げた。特定の一年を取り上げることによって、より明確なコレクション間の比較や共通問題の考察を促すということを意図している。土方50歳、瀧口75歳、油井60歳の年にどのような活動が展開したか、30年後である2008年に1978（昭和53）年を振り返る展示であった。^{*14}

土方アーカイヴでは、パリで開催された「間——日本の時空間」展（MA: Espase du Japon）のポスターや関連記事資料を展示した。海外における舞踏元年といえる1978年に行われた間展にまつわる資料を展示できたことは、舞踏研究においても有意義であった。前年4月から1978年3月まで『新潮』に連載された「病める舞姫」に、土方が書き込みを入れた資料コピーを張りつめた舞台に映像を投影。芦川羊子が「闇の舞姫十二態——ルーブル宮のための十四晩」^{*15}（構成：土方巽）というパフォーマンスを行なった舞台「闇の間」を感じさせるような展示は、今も記憶に鮮やかだ。

また特定の一年を定めることにより、和栗由紀夫の好善社旗揚げ公演となる「楼閣に翼」^{*16}、仁村桃子による「最初の花」^{*17}など普段紹介されることの少ない公演も紹介されたことも特筆すべきである。

5. アート・アーカイヴ資料展Ⅲ 1968——肉体の叛乱とその時代

2008年7月12日-25日

激震の年、全ての価値観は問い直されようとしていた。（本展紹介文より）

同じく2008年には更に10年遡った、1968年に関する展示が行われた。土方がソロ公演「肉体の叛乱」を上演した、舞踏の歴史上重要な年に当たる。3回目を迎えるアート・アーカイヴ資料展は、1968年という年を「肉体の叛乱」^{*18}を基軸として、展示・検証した。アート・センター所管の瀧口・油井コレクション資料等から同年の資料を併せて展示することにより、また『三田評論』（1968年1月～12月号）からグラビア部分のパネル展示、広報所蔵の写真資料など学内の写真資料を利用して当時の大学風景を伝える展示を行っ

た。さらにノグチ・ルームの当時を伝える写真展示もあり、1968年という時代から「肉体の叛乱」を捉え直す機会となった。同作品の舞台美術やポスター、チラシ、映像などを展示し、舞踏のメルクマールとなった公演を重層的に「体験」できたことを、筆者は今なお鮮やかに覚えている。他にも《大あんま》詩画集や『鎌鼬』などを通して、同時代の前衛芸術家との繋がりも理解できる展示であった。^{*19}

なおこの展覧会にあたり、カタログ『肉体の叛乱—舞踏1968／存在のセミオロジー』（B5変型 63頁、在庫なし）^{*20}を発行している。本カタログは再版を求める声も多く、2021年に再度発行される予定だ。

6. アート・アーカイヴ資料展Ⅴ アーカイヴの現場

2010年6月4日-13日

「Work in Situ 場における作品」と称したのに倣い、「Archive in Situ 場におけるアーカイヴ」と呼ぶこともできる。（本展カタログより）

5回目を迎えるアート・アーカイヴ資料展は、アーカイヴの実践プロセスを窺わせる展示を通して、アーカイヴにとっての「現場」とは何かを問いかける意欲的な企画であった。土方、瀧口、油井、ノグチ・ルームという、性質が異なる資料体のそれぞれに投げかけられた「現場」という問い。単純な作業の場にとどまらない、アーカイヴの新たな側面を引き出し、「アーカイヴの現場」そのものを考える機会となる展示であった。

土方アーカイヴからは命の実感プログラム「土の土方像と水滴の時間」（2008年）^{*21}として制作したインスタレーション、及び「動きのアーカイヴ」プロジェクトの成果を示し、更に写真のスポッティング作業を紹介した。まず「舞踏創造の現場」と言うべきアスベスト館での写真が展示され、稽古風景など過日の様子が提示された。しかしここで注目すべきは、写真資料に施されたもう一つの過程である。土方アーカイヴに収蔵された写真資料は、スポッティングにより創造し直される。中谷忠雄による写真が写真家成田英彦によって蘇る、スポッティングという生成過程／現場を体験できるコーナーも設け、会期最終日には成田によるトークと指導を会場にて行った。

また鶴岡サテライトキャンパスで実施した《土の土方と水滴の時間》の映像と実際に用いた土方像の展示により、「アーカイヴからの発信」を考える際にラディカルな一例を示した。アート・センターの掲げてきたアーカイヴ・モデル（生

成的アーカイヴ)は、単に対象資料の分類整理を行うのではなく、常に新しい創造へのアプローチに開かれている。土の土方像はアーカイヴから新たな創作活動をサポートし、また自らも創作行為に関わる際の一つのモデルとなる行為だったと言えよう。「動きのアーカイヴ」もまた、まさに「アーカイヴの現場」を示すことができるもう一つの事例であろう。山本萌主演<正面の衣裳>*22の稽古過程で書き留められたノートを元に、山本のソロシーンにおける「動き」を本人により再現し映像記録化する。その「動き」のコレクションとしてアーカイヴすることで、土方による稀有な作舞法の実例を見ることができる。この映像コレクションの活用により、記号化された「動き」の組合せによって成立する舞踏譜の解明、さらには新しい舞踏創造の「現場」へと結びつけることが期待できる。*23

7. アート・アーカイヴ資料展 VIII 土方巽+中西夏之 背面

2012年5月14日-6月15日

シャツの裏側から私は背面ダンスを拾った——土方巽 (『土方巽全集 I』河出書房新社、1998年)

土方巽という舞踏家と中西夏之という画家に「背面」というテーマで焦点を当て、舞踏の起源を探ろうとする果敢な企画であった。三田キャンパス南別館1階に設置された慶應義塾大学アート・スペースの2年目にあたる2011年に、時代の中での表現における一局面を抽出し、身体における「背面」の形而上学へと導こうとする展示を行った。土方は背面ダンスを舞踏の始まりにおいた。その「背面」に真っ向から挑戦した、中西の長尺ブループリント《男子総カタログ'63》の展示がなされた。「ハイレッド・センターの『シェルター計画』で撮影された男子背面の写真を、中西夏之が等身大ブループリント、ハイレッド・センターの結社員、中西夏之、赤瀬川原平、和泉達の3人の背面を複数枚つなげている」*24作品であり、展示に合わせて修復を行ったことも特記しておく。経年劣化による破れなどがあり展示に耐えうる状態ではなかったため、展示可能な形にするまでの処置を施し、後ほど最終的な処置と収納用箱の作成などを行った。*25 加えて高井富子旧蔵の中西夏之作イエロープリント《移動式背景幕》、また土方の<種子>を撮影した細江英公による写真を拡大し新規作製した4枚のパネルも展示された。

<種子>として表現された身体は、晩年の衰弱体に至る舞踏の身体思想の始まりを告げている。また同時に、これから

新たな芸術「暗黒舞踏」を創り出そうとする20代の土方が何を思考していたのかを考える上で重要なテーマであった。公演や時代といったある種客観的な設定ではなく「種子」という観点を通して、土方舞踏の真髄、あるいは「舞踏とは何か」という問いに迫る展示だったと言える。これは「ノート」や「現場」というキーワードを通して、アーカイヴについて考える展示の流れに入る企画とも言えるかもしれない。

また背面の姿が特徴的な舞踏家、室伏鴻が出演する関連催事「室伏鴻スペシャルパフォーマンス The Back」が三田キャンパス内の旧ノグチ・ルームで行われたことも記しておく。*26 加えて「土方巽+中西夏之『背面』」展パンフレット(A5、20頁、在庫あり)も刊行されている。

8. アート・アーカイヴ資料展 XIV 鎌鼬美術館設立記念 — KAMAITACHI と TASHIRO

2016年6月1日-7月15日

その日、土方巽はこの村里にストレンジャーとして侵入し、道化や馬鹿王、白痴男を演じ、鬼面人を驚かせ、あっという間に去ったのである。——森下隆 (本展印刷物より)

土方の没後30年である2016年に鎌鼬美術館の開館を祝い、また土方巽メモリアル30を記念するイベントとして開催された展示であった。1965年に撮影された細江英公の写真集『鎌鼬』は、世界の写真史に残る名作である。土方を被写体に、秋田県羽後町田代の村里で行われた撮影は、その後土方自身の創作活動にも影響を与えることとなった重要な作品である。写真集『鎌鼬』のオリジナルプリントや初公開のコンタクトシートの展示と共に、「鎌鼬の里」と呼ばれる田代を紹介する企画であった。撮影から半世紀を経ても当時と同じような風景を楽しめる、田代の里。秋田の写真家、桜庭文男による四季の写真や藤原峰によるドローンでの空撮映像で、その様子を伝えた。

地域有志の方々によって設立された「鎌鼬美術館」は、羽後町が運営する旧長谷山邸を展示館とする構想・計画である。しかし同時に日本の原風景とも言える田園や稲架のある風景、そして田代の人々の暮らしそのものも含めて、地域全体がまた、美術館であるとも言える。こうした美術館の紹介に加え、さらには茅葺き職人を秋田からお呼びし、稲架や鼬(剥製)の実物展示を行った。土方がよく言及し、舞踏の原風景とも言える「飯詰め」も展示され、東北の風土に馴染みがない来館者にも秋田の空気を体験できる内容であった。また『鎌鼬』所収の写真を元に横尾忠則がデザインした<肉体

の叛乱>ポスター、『鎌鼬』の関連資料も加えて、土方と細江の共同制作に迫る充実した展示となった。来場者は約470名を数えている*27。

加えて「稲架のある里」と題し、桜庭文男（写真）、藤原峰（映像）、本間恵介（茅葺き職人）により、日本の原風景を残すために田代の四季を撮影すること、そして稲架のフォークロアを語るシンポジウム&トークが行われた。また『『鎌鼬』の50年』として、細江とチョイ・カファイ（シンガポール）のアーティスト2名をお呼びし、65年9月に二日間の撮影によって制作された『鎌鼬』について、そして記憶を記録することについて語っていただいた。

なお展覧会カタログ『鎌鼬美術館設立記念：KAMAITACHIとTASHIRO』（A5、52頁、在庫なし）*28が発行されていることを追記しておく。

9. アート・アーカイヴ資料展 XVIII 土方巽、トリックスター／肉体の叛乱 1968 - 2018

2018年10月1日-11月2日

日常において白痴畸型をよそおったこの不浄ふれるべからざるシャーマンは、ええじゃないかにもバスターユ襲撃にも現代の擾乱にも、つねに不死の人として立ち会って光栄ある肉体の反乱を主宰したのだ。——種村季弘（『暗黒舞踊家・土方巽の狂気』『美術手帖』1968年6月号）

1998年土方巽アーカイヴをパイロット・モデルとする「ジェネティック・アーカイヴ・エンジン」が開始された。20年の節目となる2018年、アート・アーカイヴに対する取り組みを改めて見直すため、慶應義塾大学アート・センター周年事業 KUAC アート・アーカイヴ20周年記念アート・アーカイヴ資料展 XVII「ジェネティック・エンジン」プロジェクト紹介展示を始めとする一連の事業が行われた。*29

また2018年は、<肉体の叛乱>が上演されてから50年という記念の年であった。同公演を扱うのは2008年の「1968年」展に続き、二回目となる。前回はアーカイヴ保管の公演資料を展示するとともに、1968年10月に日本青年館で行われたこの公演が<肉体の叛乱>と呼称されるようになる経緯を探り、ひいてはこの舞踏公演の意味を問いかけた。それから10年を経て、今一度<土方巽と日本人——肉体の叛乱>とは何だったのかを上演50年後に問いかける展示をめざした。公演後1970年代にダンスの構造と方法の大変革に向かう土方は、拐引されるようにフィルムやグラビアに集中的に

収められ、「魔神」また「悪霊」、「呪術師」、「奇形児の王」とも呼ばれて、異形の「土方巽」がメディアに氾濫した。展覧会メインビジュアルである深瀬昌久撮影の<土方と機動隊>写真に端的に現れた、「トリックスター」としての土方に迫る展示であった。また「土方巽とは誰か」、「土方巽の舞踏とは何だったのか」をめぐって再考する機会でもあった。

展示室外部壁面には、写真集『鎌鼬』から<馬鹿王の行進>写真の大プリント（3×4m）が架けられた。その写真が透けて見えるように、写真集『鎌鼬』から生まれ、かつ舞踏公演にも大きな影響を与えた種村季弘の「肉体の叛乱」全文を印刷した透過性の布を掲げた。室内には<肉体の叛乱>公演衣裳である金色の模造男根（土井典制作）のほか、ワラの大きな男根、石の黒色男根を展示した。模造男根は舞台上で土方が使用した男根と同じ型から鋳出した、オリジナルの衣裳が窺い知れる作品だ。またワラ男根は土方の母の故郷である湯沢の道祖神であり、石の男根は父の故郷羽後町で神官の家に伝わるものである。さらに土方舞踏をデジタル時代の現在に再設置して問いかけるため、手前には中村宏が撮影した<肉体の叛乱>公演記録映像（モノクロ）、奥の壁面にはシンガポール人アーティストのチョイ・カファイ演出のダンス作品「存在の耐えられない暗黒」のドイツ公演映像（カラー）をシンクロ上映した。加えて現在世界中に広まった舞踏の状況を示唆する展示を行った。海外で行われている舞踏の公演やワークショップを案内するフライヤーをFacebookからピックアップし、およそ50点のフライヤーで壁を埋めた。エンジンである土方から、「舞踏」が「BUTOH」に発展し世界に広まっている様子が実感できる展示であり492名の入場者を迎えた。

さらに展覧会に合わせて、パフォーマンスやシンポジウムが開催された。幻の舞踊誌とされていた『20世紀舞踊』の創刊号（1960年7月1日発行）及び第2号（1960年7月15日発行）が池宮信夫資料から発見されたことを受け、シンポジウム「『20世紀舞踊』を検証する」が行われた。日本のダンス、特に戦後のダンス研究にあっては看過できない資料である舞踊誌『20世紀舞踊』をめぐって、当時編集にあっていたうらわまことと山野博大（20世紀舞踊の会同人）による貴重な証言が寄せられた。同日には池宮中夫ソロダンス「N一叛乱の待合所」によるパフォーマンスも行われた。

加えて長岡ゆりと正朔を中心とするDance Medium & UNFIXの舞踏「『曼珠沙華』～地上に咲く花、天界に咲く花～」、Rosa van Hensbergenと筆者によるイギリス・イラン・日本での国際共同制作作品「Inventory of My Life」、ポーラ

ンドの舞踏カンパニー Amareya Theater の「“DEADMAN EATING WATERMELON” (スイカを喰らう死者)」と現在進行形の舞踏を体験できる催事が企画された。最後に立花秀輝のフリージャズ (アルトサクソ) の演奏と共に、改めて「肉体の叛乱」映像を再見する機会があった。^{*30}

最後に 2020 年の活動をここに加えておく。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年であり、アーカイブとしての活動は年報別ページに記載する。しかしコロナ禍でデジタル展示へと変更を余儀なくされたオンライン展覧会「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」^{*31}について、ここに特記しておきたい。慶應義塾ミュージアム・コモンズによって「部屋」(Exhibition RoomX) がオンライン上にオープンし、福澤諭吉の訳語「人間交際 (じんかんこうさい)」をテーマに展覧会が開催された。10月26日から2月28日と、オンラインでなければ実現できない長期間の会期で、慶應義塾が所蔵する美術、考古学、歴史、貴重書などさまざまなコレクションから 57 点の文化財が出品された。

貴重な資料のオリジナルを直に自分の目で見るとの喜びについては、議論するまでもない自明のことと思う。しかしながらデジタルならではの展示・解説があること、更にはリアルな展示では不可能な視点・手法で資料を紹介できることに大きな可能性を感じた。具体的には、出品した「なだれ飴」のスクラップブック全ページを丹念に見せることができ、また「見どころ」ページとして特に重要な見開き 1 ページを選び解説をつけた。これによりスクラップブックの特定の絵から、どのように振付が起こされたか、「動きのアーカイブ」や公演の実演映像も含めて多角的に説明することが可能となった^{*32}。加えて土方アーカイブの森下隆が、スクラップブックや舞踏譜について説明する動画も添えることができた。^{*33}

アーカイブにとって資料の保護は、公開と常にセットとして考えてゆかなければならない重要な問題である。保存を尊重し誰もアクセスできない資料となると、アーカイブの存在意義にも関わる。資料として貴重であればあるほど、多くの方に直に触れて詳細を調査して頂きたい。だが、そうすればダメージを作り出すこととなる。オンラインならばそうした心配が一切なく、世界中どこからでも何度でもアクセスしてもらえることも大きな強みである。会期は終了したが、英文に翻訳しバイリンガルコンテンツとして再度オープンする予定となっており、展覧会コンテンツの事後利用も含めて半永久的に使用できるのもデジタル展示の長所であろう。昨年紹

介した^{*34} 大阪万博 50 周年に合わせて行われた展示も、高島屋資料館 TOKYO^{*35}、大阪大学総合学術博物館^{*36} の事例にも見受けられるように「展示アーカイブ」として終了した展示の記録を詳らかに見せることの意義が感じられる。ループル美術館の全所蔵品がネット公開されたデジタルアーカイブについての記事^{*37} も記憶に新しいが、その他 VR の利用やデジタルコンテンツの充実など、様々な取り組みが美術館でなされている。私自身もアーカイブの収蔵庫に居ながらにして、メキシコのアートスクールで中南米の舞踏ファンに向けた展示解説を行った^{*38}。従来型の鑑賞体験を肯定しながら、より複合的に多角的に、時間や場所の制約を受けない形での発信方法を探る良い経験となったことをここに書き添えておく。

未来を思考するために、過去からの「Blast (風)」を受けることで現在求められている新たな視座を追求する。過去という「動的な出来事」から、現在に何を仕掛け、未来へと繋いでゆくのか、その問いはアーカイブそのものが果たさなければならぬ役割、そしてアーカイブの真髄であるとも考えられよう。デジタル偏重に陥らず、オリジナルで一点物の資料に出会う「体験」をより大切にするために、それを補う発信方法を考えてゆきたい。

註

- * 1 《播磨大踏鑑第二次暗黒舞踏派結束記念公演・四季のための二十七晩》(疱瘡譚)〈すさめ玉〉(碇子考)〈なだれ飴〉(ギバサン)、1972年10月25日～11月20日、アートシアター新宿文化。
- * 2 《哈爾賓派結成記念公演》[玉野黄市作品集]〈長須鯨〉、1972年9月14日、東京厚生年金会館小ホール。
- * 3 石井達朗「土方巽アーカイブ開設記念：《四季のための二十七晩》をめぐって」、『ARTLET』no.11、1999年、2-3頁、および柳井康弘、楠原借子『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.6、1999年、28-33頁。
- * 4 土方アーカイブ開設については、前田富士男「土方巽アーカイブの開設」、『ARTLET』no.10、1998年、5頁。
- * 5 鷺見洋一『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.6、1999年、60頁。
- * 6 慶應義塾大学アート・センター編、『播磨大踏鑑：四季のための二十七晩』、1998年。
- * 7 ガルメラ商会謹製《暗黒舞踏派提携記念公演》〈バラ色ダンス—— A LA MAISON DE M. CIVECAWA (澁澤さんの家

- の方へ)、1965年11月27-28日、千日谷会堂。
- * 8 柳井康弘「展覧会『バラ色ダンス』のイコノロジー——土方巽を再構築する」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.8、2001年、25-28頁。
 - * 9 鷺見洋一、前田富士男、森下隆、柳井康弘編、『平成12年度科学研究費補助金(COE形成基礎研究費)研究報告書〈バラ色ダンス〉のイコノロジー——土方巽を再構築する』、2000年。
 - * 10 土方巽アーカイヴ編、『土方巽[舞踏]資料集第1歩』、2000年。
 - * 11 渡部葉子「アート・アーカイヴ資料展I ノートする四人——土方、瀧口、ノグチ、油井」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.14、2007年、34-38頁。
 - * 12 慶應義塾大学デジタルアーカイヴ・リサーチセンター発行『オープン・リサーチ・センター整備事業(ORC)進化するアーカイヴ 慶應義塾大学デジタルアーカイヴ・リサーチセンター報告書(2001-2006)』、2006年。及び慶應義塾大学デジタルアーカイヴ・リサーチセンター発行『オープン・リサーチ・センター整備事業(ORC)デジタルアーカイヴ——その継承と展開 慶應義塾大学デジタルアーカイヴ・リサーチセンター報告書(2006-2009)』、2009年を参照。
 - * 13 前田富士男「アート・アーカイヴ資料展関連企画レクチャー&ディスカッション『アーティストはアーキヴィスト!』」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.14、2007年、39-40頁。
 - * 14 渡部葉子「アート・アーカイヴ資料展II 1978」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.15、2008年、40-43頁。
 - * 15 パリ市フェスティバル・ドートンヌ《間展》〈闇の舞姫十二態——ルーブル宮のための十四晩〉、1978年10月、ルーブル装飾美術館。
 - * 16 《和栗由紀夫舞踏公演・好善社回想記念公演》〈楼閣に翼〉、1978年10月27-29日、三百人劇場。
 - * 17 《仁村桃子舞踏公演・アスベスト館松代分室設置記念》〈最初の花〉、1978年10月23-25日、三百人劇場。
 - * 18 《土方巽舞踏公演》〈土方巽と日本人——肉体の叛乱〉、1968年10月9-10日、日本青年館。
 - * 19 渡部葉子「アート・アーカイヴ資料展III 1968-肉体の叛乱とその時代」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.16、2009年、34-37頁。
 - * 20 前田富士男、渡部葉子、森下隆、本間友編、『肉体の叛乱——舞踏1968／存在のセミオロジー』、2009年。
 - * 21 森下隆「【特別企画】命の実感プログラム 土の土方像と水滴の時間」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.16、2009年、54-55頁。なお2012-13年には「原始感覚美術祭」において「土の土方像」を祈りの雨版として新たに制作・展示を行なった。
 - * 22 《山本萌金沢舞踏館設立記念公演・暗黒舞踏派結成20周年記念連続公演・アスベスト館10月公演・幡樺大踏鑑》作品No.15〈正面の衣裳——少年と少女のための闇の手本〉、1976年10月28日～11月3日、アスベスト館。
 - * 23 渡部葉子「アート・アーカイヴ資料展V アーカイヴの現場」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.18、2010年、49-50頁。
 - * 24 森下隆「土方巽+中西夏之『背面』」展パンフレット、2012年。
 - * 25 「慶應義塾所蔵作品調査・保存活動」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.20、2013年、44-45頁。
 - * 26 森下隆、渡部葉子、笠井裕之、橋本まゆ「慶應義塾大学アート・スペース」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.20、2013年、22-33頁。
 - * 27 森下隆「アート・アーカイヴ資料展XIV 鎌鼬美術館設立記念KAMAITACHIとTASHIRO」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.24、2017年、31、34、35頁。
 - * 28 藤原峰、森下隆、森山緑編『鎌鼬美術館設立記念：KAMAITACHIとTASHIRO』、2016年。
 - * 29 久保仁志「アート・アーカイヴ資料展XVII『ジェネティク・エンジン』プロジェクト紹介展示」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.26、2019年、39-40頁。
 - * 30 森下隆「アート・アーカイヴ資料展XVIII『土方巽、トリックスター／肉体の叛乱1968-2018』展」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.26、2019年、43-44頁。
 - * 31 オンライン展覧会「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」慶應義塾が主催として、慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻、慶應義塾大学文学部民族学考古学専攻、慶應義塾大学文学部古文書室、慶應義塾大学三田メディアセンター、慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫、慶應義塾福澤研究センター、慶應義塾大学アート・センターが共催として開催された。
 - * 32 「舞踏譜」みどころページ <https://studio.kemco.keio.ac.jp/roomx.midokoro/artcenter.html>
 - * 33 「Keio Exhibition RoomX: 人間交際」オンラインギャラリートーク② <https://www.youtube.com/watch?v=2C4LOklu6iU>

-
- *34 石本華江「土方巽アーカイヴー22年の歩み及び今後の展開」、『慶應義塾大学アート・センター年報』vol.27、2020年、172-182頁。
 - *35 高島屋資料館 TOKYO「大阪万博カレイドスコープーアストロラマを覗くー」https://www.takashimaya.co.jp/shiryokan/tokyo/archives/exhibition_vol5.html
 - *36 大阪大学総合学術博物館第14回特別展「なんやこりゃ EXPO'70ー大阪万博の記憶とアート」<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2020-04-13-13845/>
 - *37 「美術館が恋しい？ルーブルが全所蔵品をネットで公開」(2021年3月30日)<https://www.cnn.co.jp/style/arts/35168536.html>
 - *38 The Centro de las Artes de Hidalgo 主催、オンラインレクチャー「La Muerte Coloquio de Danza Butoh」2020年11月30日 https://www.facebook.com/watch/live/?v=2649045185347310&ref=watch_permalink

土方巽アーカイヴ展示出品リスト [2021年5月改訂版]

筆者注記：年報に記載のある出品リストもあるが、新規作成及び情報追加し改訂版として一望できるように整えた。

今回不明だった部分は空白に残している。今後調査を継続し追記してゆきたい。

土方巽アーカイヴ開設記念《四季のための二十七晩》をめぐる資料《四季のための二十七晩》									
	作家名	作品名	制作年	材質・形態・技法	寸法	所蔵	分類	形状	備考
1	細江英公	〈長洲鯨〉の稽古風景	1972	B/W	H300.0 × W200.0	作家蔵	写真		
2	小野塚誠	〈疱瘡譚〉病める舞姫	1972	B/W	H20.6 × W25.3	KUAC	写真		OC0300044
3	小野塚誠	〈疱瘡譚〉楽屋にて	1972	B/W	H12.2 × W16.4	KUAC	写真		OC0330083
4	鳥居良禪	〈疱瘡譚〉デュエット	1972	B/W	H18.0 × W13.0	KUAC	写真		TRC0010086
5	鳥居良禪	〈疱瘡譚〉勇婦たち	1972	B/W	H13.0 × W18.0	KUAC	写真		TRC0010214
6	小野塚誠	〈すさめ玉〉二人狂女	1972	B/W	H20.3 × W25.4	KUAC	写真		OC0310032
7	鳥居良禪	〈すさめ玉〉芸者と狂女	1972	B/W	H13.0 × W18.0	KUAC	写真		TRC0010078
8	小野塚誠	〈すさめ玉〉デュエット	1972	B/W	H25.4 × W20.3	KUAC	写真		OC0330070
9	深瀬昌久	《四季のための二十七晩》：踊りと衣裳	1972	C	H56.0 × W72.0	KUAC	写真		
10	深瀬昌久	《四季のための二十七晩》：踊りと衣裳	1972	C	H56.0 × W72.0	KUAC	写真		
11	深瀬昌久	《四季のための二十七晩》：踊りと衣裳	1972	C	H56.0 × W72.0	KUAC	写真		
12	深瀬昌久	《四季のための二十七晩》：踊りと衣裳	1972	C	H56.0 × W72.0	KUAC	写真		
13	鳥居良禪	〈碁子考〉：ほおかむりの女	1972	B/W	H18.4 × W25.5	KUAC	写真		
14	倉橋正	〈碁子考〉：土方と人形	1972	B/W	H25.4 × W20.5	KUAC	写真		Sbw-1276
15	鳥居良禪	〈なだれ館〉：玉野黄市、佐藤浩一、雨宮五郎	1972	B/W	H13.0 × W18.0	KUAC	写真		TRC0010151
16	倉橋正	〈なだれ館〉：リハーサル	1972	B/W	H20.5 × W25.4	KUAC	写真		Sbw-478
17	鳥居良禪	〈なだれ館〉：芦川羊子	1972	B/W	H18.0 × W13.0	KUAC	写真		TRC0010104
18	山崎博	〈ギバサン〉：ライオン	1972	C	H25.3 × W20.2	KUAC	写真		Sc-177
19	小野塚誠	〈ギバサン〉：フィナーレ	1972	B/W	H20.3 × W25.4	KUAC	写真		OC0370049
20	細江英公	〈ギバサン〉：カーテン・コール	1972	B/W	H12.7 × W18.4	作家蔵	写真		HC0010055
21	大内田圭弥	映像記録〈疱瘡譚〉短縮版	1972	16ミリ	9分	KUAC	映像（動画）		
22	Y A S = KAZ	《四季のための二十七晩》に使われた楽器（復元）		ステンレス		作家蔵	立体		
23	中島徹	《四季のための二十七晩》ポスター	c.1972		H103.0 × W72.8	KUAC	ポスター		
24	吉野章郎	《四季のための二十七晩》ポスター	c.1972		H72.8 × W103.0	KUAC	ポスター		土方巽
25	小野塚誠	《四季のための二十七晩》ポスター	c.1972		H103.0 × W72.8	KUAC	ポスター		
26	小野塚誠	《四季のための二十七晩》ポスター	c.1972		H103.0 × W72.8	KUAC	ポスター		
27	藤森秀郎	《四季のための二十七晩》チラシ	c.1972	紙、インク	W36.0 × H25.0	KUAC	チラシ		
28	中島徹	《四季のための二十七晩》チラシ	c.1972	紙、インク	H25.5 × W35.8	KUAC	チラシ		
29		《四季のための二十七晩》チケット	c.1972	紙、インク	H8.0 × W19.5	KUAC	チケット		
30	山崎博 デザイン： 田中一光	《静かな家》ポスター	c.1973		H103.0 × W73.0	KUAC	ポスター		
31	山崎博	〈ギバサン〉：あざみ	1972	B/W	H25.3 × W20.3	KUAC	写真		Sc-173
32		〈碁子考〉：フラマン	1972	B/W		KUAC	写真		
33	細江英公	〈碁子考〉：フラマン	1972	B/W	H12.7 × W18.3	作家蔵	写真		HC0010051
34	細江英公 デザイン： 田中一光	写真集『鎌鼬』現代思潮社、1969年	1969	紙、インク	H43.0 × W34.0	KUAC	書籍		
35	細江英公	玉野黄市を振り付ける土方巽	1969	B/W	H180.0 × W90.0	作家蔵	写真		
36		土方巽アーカイヴ・デジタル・デモンストラーション	1998	デジタルデータ		KUAC			
37	吉江庄蔵	土方巽・デス・フット（11/28・12/15のみ展示）	1986	ブロンズ	H16.7×W8.5×D22.2	KUAC	立体		
38	重村三雄	土方巽・全身像（11/28・12/15のみ展示）							
39		〈ギバサン〉：あざみの衣裳（11/28・12/15のみ展示）	c.1972	布	H136.0 × W138.0	KUAC	立体		
《バラ色ダンス》のイコノロジー —— 土方巽を再構築する									
1	中西夏之	舞台空間メモ：ピンクの右脚と緑の左脚	1995	紙、インク	H25.7 × W36.5	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
2	中西夏之	土方巽の脚について	c.1965	紙、鉛筆	H19.5 × W15.0	作家蔵	書写資料、手稿	シート	

3	中西夏之	ピンクと緑の習作	1964	油彩、アルミ塗料、パステル・キャンヴァス	H73.2 × W90.6	個人蔵	書写資料、手稿	シート	
4	中西夏之	舞台空間メモ：王妃ガブリエル・デストレとその姉による循環について	1995	紙、インク	H25.7 × W36.5	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
5	横尾忠則	〈バラ色ダンス〉ポスター	1965	シルクスクリーン	H102.6 × W72.8	KUAC	ポスター		
6	横尾忠則	〈バラ色ダンス〉ポスター版下・色指定紙	1965		H44.2 × W31.4	作家蔵	ポスター		
7	中西夏之	緑の右手とピンクの左手	1965-66	油彩、アルミ塗料、パステル・キャンヴァス	H182.5 × W222.2	個人蔵 (足利市立美術館寄託)	書写資料、手稿	シート	
8	中西夏之	舞台空間メモ：ピンクの右手と緑の左手	1995	紙、インク	H25.7 × W36.5	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
9	中西夏之	作品構想ノート	c.1965	紙、インク	H19.1 × W26.1	作家蔵	書写資料、手稿		
10	中西夏之	〈バラ色ダンス〉招待状	1965	真鍮箔、蠟、活版印刷・紙	H19.4 × W39.4	KUAC	招待状		
11	中西夏之	舞台空間メモ：バラ色ダンス招待状	1995	紙、インク	H25.7 × W36.5	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
12	加納光於	砂糖菓子のオブジェ：なめられるプログラム	1965		H24.0 × W17.6 × D6.5	KUAC	立体		
13	加納光於	〈砂糖菓子のオブジェ〉のためのドローイング	1965	鉛筆、水彩・紙	H21.1 × W30.2	KUAC	書写資料、手稿	シート	
14		〈砂糖菓子のオブジェ〉のための木型	1965		H34.7 × W12.5 × D3.2	KUAC	立体		
15	加藤郁乎、 加納光於	〈砂糖菓子のオブジェ〉のための舌代	1965	紙、インク	原稿 H24.7 × W32.7 葉書 H14.5 × W10.3	KUAC	招待状	シート、葉書	
16	中西夏之	ピクチャーの犬	1965		H70.0 × W66.6 × D30.0	KUAC	立体	マスコット キャラクター	
17	中西夏之	中西夏之の背面（男子総カタログ'63より）	1963	ブループリント	H168.5 × W66.7	KUAC	立体		
18	赤瀬川原平	易断面相図幕	1965	墨・布	H190.0 × W255.0	KUAC	立体		
19	飯村隆彦	処女懐胎あるいは（バラ色ダンス）	1965	16ミリ（ブローアップ）、モノクロ、サイレント	10分	作家蔵	映像（動画）		
20	細江英公	土方巽と大野一雄のデュエット「天使の踊り」	1965	B/W	H33.0 × W22.0		写真		
21	細江英公	土方巽と大野一雄のデュエット	1965	B/W			写真		
22	細江英公	易断面相図幕	1965	B/W	H11.8 × W18.4		写真		HC0010085
23	細江英公	床屋のシーン	1965	B/W	H12.0 × W17.3		写真		HC0010034
24	野上透	宣長（本居宣長）の文字	1965	B/W	H25.3 × W20.3	KUAC	写真		HP0000134
25	野上透	胎児の踊り	1965	B/W	H20.3 × W25.3	KUAC	写真		HP0000137
26	中谷忠雄	女陰のオブジェと化した玉野黄市	1965	B/W	H36.0 × W28.0	KUAC	写真		NC0090015
27	野上透	舞台全景	1965	B/W	H20.3 × W25.3	KUAC	写真		HP0000133
アート・アーカイヴ資料展Ⅰ ノートする四人——土方、瀧口、ノグチ、油井									
1	土方巽	舞踏譜「なだれ飴」	不詳	スクラップブック、インク、鉛筆	H35.5 × W52.5	KUAC	書写資料、手稿	スクラップブック	
2	土方巽	舞踏譜「花」	不詳	スクラップブック、インク、鉛筆	H36.5 × W51.0	KUAC	書写資料、手稿	スクラップブックA4	
3	土方巽	舞踏譜「ペーコン初稿」	不詳	紙、鉛筆、インク	H21.0 × W29.7	KUAC	書写資料、手稿	広告裏紙	2枚マットに
4	土方巽	舞踏譜「焼跡でみた火傷の人」	不詳	紙、鉛筆、インク	H39.5 × W27.2	KUAC	書写資料、手稿	わら半紙マットA4	
5	土方巽	舞踏譜「化石の恐竜」	不詳	紙、鉛筆、インク	H25.7 × W35.6	KUAC	書写資料、手稿	わら半紙B4	表裏
6	土方巽	舞踏譜「なだれ飴」[花]	2006	デジタルデータ		KUAC	写真	PC・モニター	
7	山本萌	舞踏ノート「正面の衣裳」	1976	紙、インク	H21.0 × W29.8	作家蔵	書写資料、手稿	大学ノート（コピー）	
8	玉野黄市	舞踏ノート「梨頭」	1976	紙、インク	H21.0 × W29.8	作家蔵	書写資料、手稿	大学ノート	

9		土方巽の言葉が／記号に／身体へ 和栗由紀夫「舞踏譜」より	2006	C		KUAC	写真	デジタル・プリント	
10		ベーコンの (舞踏譜「ベーコン初稿」)	2006	C		KUAC	写真	デジタル・プリント	
11		1972 ベーコン的 映像 痲瘡譚「ゴム」	1972/2004	DVD	9分16秒	KUAC	映像 (動画)	プロジェクト	
12		1976 白ドレス、黒ドレス 映像「正面の衣裳」白ドレス・黒ドレス」	1976/2006	DVD	1分40秒	KUAC	映像 (動画)	プロジェクト	
13	中西夏之	舞台空間メモ	1995	紙、インク	H25.7 × W36.5	作家蔵	書写資料、手稿	写しコピー B4	
アート・アーカイヴ資料展 II 1978									
1	デザイン: アスベスト館	〈楼閣に翼〉ポスター	1978		H73.0 × W51.5	KUAC	ポスター		
2	デザイン: アスベスト館	〈楼閣に翼〉チラシ	1978	紙、インク	H22.1 × W15.9	KUAC	チラシ		
3	デザイン: アスベスト館	〈楼閣に翼〉チケット	1978	紙、インク	H14.8 × W4.3	KUAC	チケット		
4	デザイン: アスベスト館	〈最初の花〉ポスター	1978		H73.0 × W51.5	KUAC	ポスター		
5	デザイン: アスベスト館	〈最初の花〉チラシ	1978	紙、インク	H21.8 × W16.0	KUAC	チラシ		
6	デザイン: アスベスト館	〈最初の花〉チケット	1978	紙、インク	H6.1 × W18.0	KUAC	チケット		
7	デザイン: アスベスト館	「間」展ポスター〈間〉	1978		H74.0 × W49.5	KUAC	ポスター		改訂版
8	田淵安一	「間」展展評『読売新聞』	1978	紙、インク	H29.7 × W21.0	KUAC	新聞記事		
9		「芦川羊子」舞台評 (Le Monde)	1978	紙、インク	H29.8 × W21.2	KUAC	新聞記事		
10		「間」展紹介記事 (La Libre Belgique)	1978	紙、インク	H41.5 × W29.8	KUAC	新聞記事		
11		「暗黒舞踏」舞台評 (Libération)	1978	紙、インク	H42.0 × W29.8	KUAC	新聞記事		
12		「間」展紹介記事	1978	紙、インク	H42.0 × W59.4	KUAC	新聞記事		
13		「間」展関連写真: 芦川羊子の振りにおどける「間」展参加者たち	1978	B/W	H10.3 × W15.5	KUAC	写真		HP0003439
14		「間」展関連写真: 会場を訪れたマン・レイ未亡人	1978	B/W	H10.2 × W15.4	KUAC	写真		HP0003446
15	土方巽、大内田圭弥	「風の景色」より	1976	デジタルデータ		KUAC	映像 (動画)	DVD プロジェクト	
16	芦川羊子、土方巽	「闇の舞姫」〈ひとがた〉〈鯨線上の奥方〉より	1976	デジタルデータ		KUAC	映像 (動画)	DVD プロジェクト	
17	デザイン: 杉浦康平	「間」展カタログ	1978	紙、インク	H25.0 × W25.0	KUAC	カタログ		
18		Festival d'Automne à Paris ガイド	1978	紙、インク	H44.0 × W23.7	KUAC			
19	土方巽	「病める舞姫」『新劇』1978年1月号	1978	紙、インク	H21.0 × W15.0	KUAC			
20	土方巽	「病める舞姫」『新劇』1978年3月号	1978	紙、インク	H21.0 × W15.0	KUAC			
21	森下隆	「間」展参加案内状	c.1978	紙、インク	H29.8 × W21.0	KUAC	案内状	原稿用紙5枚	
アート・アーカイヴ資料展 III 1968—肉体の叛乱とその時代									
1	三木富雄、加納光於、野中ユリ (共作)	《大あんま》詩画集	1968		H38.2 × W56.2	KUAC	書写資料、手稿		
2	瀧口修造ほか	《大あんま》詩画集	1968		H38.2 × W56.2	KUAC	書写資料、手稿		
3	横尾忠則	〈土方巽と日本人—肉体の叛乱〉ポスター	1968	シルクスクリーン	H102.0 × W73.5	KUAC	ポスター		
4	横尾忠則	〈土方巽と日本人—肉体の叛乱〉ポスター (土方巽手形付)	1968	シルクスクリーン	H102.6 × W72.8	KUAC	ポスター		
5	土井典	模造男根	c.1987	FRP、人毛	H22.7 × W8.2 × D6.2	KUAC	立体		
6	深瀬昌久	〈肉体の叛乱〉舞台写真	1968	B/W		KUAC	写真		

7	鳥居良禪	〈肉体の叛乱〉舞台写真	1968	B/W	H25.3 × W20.3	KUAC	写真		TRC0010013
8	中谷忠雄	〈肉体の叛乱〉舞台写真	1968	B/W	H77.1 × W51.5	KUAC	写真		NC0090036
9	長谷川六	〈肉体の叛乱〉舞台写真	1968	B/W	H51.3 × W62.8	KUAC	写真		Sbw-100
10	羽永光利	〈肉体の叛乱〉舞台写真	1968	B/W	H42.1 × W33.3	KUAC	写真		HP0000308
11		〈肉体の叛乱〉舞台衣裳（白振袖、赤ドレス、黒手袋）	c.1968		赤ドレス：上衣袖の長さ50、身頃肩幅52.5、身頃後ろ53、身頃前94、下衣スカートウエスト73.5、丈162、白無垢：H184.0 × W128.0	KUAC	立体		
12	深瀬昌久	《白馬一土方巽と萩原朔美》写真パネル		B/W		KUAC	写真パネル		
13		〈肉体の反乱〉舞台装置（真鍮板、真鍮板〔トレーシングペーパー付〕）	c.1968	真鍮		KUAC	立体		
14	清水晃	《まんだら屋敷》ポスター	c.1968		H102.3 × W72.0	KUAC	ポスター	B1	
15	中村宏	《D53264 機にのる友達・バイオレット・ノジェイルの方へ》ポスター	c.1968		H72.8 × W51.6	KUAC	ポスター		
16		細江英公写真展《とてつもなく悲劇的な喜劇》チラシ	1968	紙、インク	H41.9 × W29.2	KUAC	チラシ		
17		《石井満隆舞踏公演 おじゅね抄》案内状	c.1968	皮革製	H21.0 × W29.7	KUAC	案内状		
18		種村季弘文『美術手帖』1968年6月号	1968	紙、インク	H21.0 × W14.8	KUAC	書籍	A5	
19	細江英公	写真集『鎌鼬』現代思潮社、1969年	1969	紙、インク	H43.0 × W34.0	KUAC	書籍		
20	細江英公	細江英公写真集『鎌鼬』復刻英語版（Kamaitachi: Eikoh Hosoe, Aperture, 2005）	2005	紙、インク	H390.0 × W310.0	KUAC	書籍		
21	細江英公	細江英公写真集『鎌鼬』オリジナルプリント作品#8	1969	B/W	H21.0 × W31.3	KUAC	写真		
22	細江英公	細江英公写真集『鎌鼬』オリジナルプリント作品#13	1969	B/W	H21.0 × W31.5	KUAC	写真		
23	中西夏之	《舞台空間メモ》より〈土方巽と日本人—肉体の叛乱〉のための舞台装置	1995	紙、インク	H41.0 × W33.0	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
24	中西夏之	〈吊られた6枚の大真鍮板・解体する六曲屏風〉	1995	紙、インク	H41.0 × W33.0	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
25	中西夏之	〈旭日の中の白馬と真鍮版〉〈上方の兎・緑の受け皿〉	1995	紙、インク	H41.0 × W33.0	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
26	中西夏之	〈蚊帳、移動式舞台のための〉〈理髪店電飾看板（通称、アメン棒）〉	1995	紙、インク	H41.0 × W33.0	作家蔵	書写資料、手稿	シート	
27	種村季弘	種村季弘文「肉体の叛乱」案内状（ガルメラ商会）	1968		H27.2 × W39.4	KUAC	案内状	シート	
28		〈土方巽と日本人—肉体の叛乱〉チケット	c.1968	紙、インク	H12.9 × W11.9	KUAC	チケット		
29	中村宏	〈土方巽の肉体の叛乱〉映像	1968	16ミリ	13分30秒	KUAC	映像（動画）		
30	Basilie Doganis	〈室伏鴻の silver flesh〉映像	2008	デジタルデータ	14分		映像（動画）		
31	亀村佳宏	朗読映像（「肉体の反乱」）：四谷シモン、大野慶人、笠井淑、福島泰樹	2008	デジタルデータ	22分47秒	KUAC	映像（動画）		
アート・アーカイヴ資料展V アーカイヴの現場									
1	中谷忠雄	アスベスト館稽古風景写真		B/W	H12.0 × W18.1	KUAC	写真		NC0500055
2	成田英彦	アスベスト館稽古風景 スポッティング写真		B/W	H23.5 × W34.5	KUAC	写真		NC0270071
3	撮影：亀村佳宏	土の土方と水滴の時間 記録映像（ハイビジョン）	2008	デジタルデータ	10分39秒	KUAC	映像（動画）		
4	撮影：高山	土の土方と水滴の時間 記録写真	2008	C		KUAC	写真		
5	制作：吉江庄蔵	土の土方と水滴の時間 土方像 木組み原型	2008			KUAC	立体		
6	制作：石田信裕	土の土方と水滴の時間 土方像〈抱瘡譚〉スケールモデル（FRP）	2008	FRP		KUAC	立体		
7	撮影：亀村佳宏	「動きのアーカイヴ」舞踏譜による「動き」再演映像 山本萌〈正面の衣裳〉	2009	デジタルデータ	1分40秒	KUAC	映像（動画）		
8	撮影・編集：亀村佳宏	「動きのアーカイヴ」舞踏譜による「動き」再演映像 ハードディスク HA-76	2009	ハードディスク		KUAC	ハードディスク		

9	土方巽 記録：山本萌	舞踏ノート「正面の衣裳」(コピー)	1976	紙、インク	H21.0 × W29.8	作家蔵	書写資料、手稿	大学ノート (コピー)	
アート・アーカイヴ資料展 VIII 土方巽+中西夏之 背面									
1	細江英公	種子	1960	B/W	H315.0 × W405.0	作家蔵	写真		
2	細江英公	晴海埠頭での男子群像 (3点)	1960	B/W	H40.2 × W56.0, H56.0 × W44.2, H43.7 × W56.0		写真		Sbw-1195, Sbw-1193, Sbw-1191
3	中谷忠雄	〈バラ色ダンス〉の舞台	1965	B/W	H37.4 × W56.0	KUAC	写真		NC0230038
4	中谷忠雄	女陰図を背に踊る玉野黄市	1965	B/W	H55.8 × W39.9	KUAC	写真		NC0090015
5	中谷忠雄	土方巽の背に解剖図を描く中西夏之	1967	B/W	H37.5 × W55.9	KUAC	写真		NC0360001
6	中谷忠雄	移動幕と土方巽	1967	B/W	H56.0 × W37.4	KUAC	写真		NC0350012
7		屠殺場の男子群像	1960	B/W	H24.7 × W16.2	KUAC	写真		HP0000145
8		《土方巽DANCE EXPERIENCEの会》 (1960年)	1960	紙、インク	H24.8 × W24.1	KUAC	パンフレット		
9		《土方巽DANCE EXPERIENCEの会》 (1961年)	1961	紙、インク	H24.8 × W24.1	KUAC	パンフレット		
10	埴谷雄高	『闇のなかの思想』(1962年三一書房)	1962	紙、インク	H17.3 × W10.8	榎木高司蔵	書籍		
11	中西夏之	男子総カタログ63	1963	ブループリント	H1190.0 × W80.0	KUAC	立体		
12	中西夏之	中西夏之の背面 (男子総カタログ63より)	1963	ブループリント	H168.5 × W66.7	KUAC	立体		
13	中西夏之	ビクターの犬	1965		H70.0 × 30.0 × D66.6	KUAC	立体	マスコット キャラクター	
14	中西夏之	移動幕	c.1967	布・シルクスクリーン	H480.0 × W840.0	高井富子 旧蔵	立体		
15	中西夏之	舞台空間メモ 移動式背景幕	c.1967	紙、インク	H41.0 × W33.0	KUAC	書写資料、手稿	シート	
16	細江英公	へそと原爆	1960	16ミリ	20分	作家蔵	映像(動画)		
アート・アーカイヴ資料展 XIV 鎌鼬美術館設立記念——KAMAITACHIとTASHIRO									
1	細江英公	鎌鼬コンタクト帳 (2冊)	1965			作家蔵	コンタクト プリント	ファイル	
2	細江英公	鎌鼬3	1969	B/W	H21.0 × W31.5	KUAC	写真	オリジナル プリント額装	
3	細江英公	鎌鼬4	1969	B/W	H21.0 × W31.5	KUAC	写真	オリジナル プリント額装	
4	細江英公	鎌鼬5	1969	B/W	H21.0 × W31.5	KUAC	写真	オリジナル プリント額装	
5	細江英公	鎌鼬コンタクトプリント	1965	B/W		KUAC	コンタクト プリント	額装	
6	細江英公	鎌鼬コンタクトプリント	1965	B/W		KUAC	コンタクト プリント	額装	
7	細江英公	鎌鼬コンタクトプリント	1965	B/W		KUAC	コンタクト プリント	額装	
8	細江英公	鎌鼬コンタクトプリント	1965	B/W		KUAC	コンタクト プリント	額装	
9	桜庭文男	田代の四季1 初夏	2016	C		桜庭文男	写真	デジタル プリント パネル	
10	桜庭文男	田代の四季2 秋・稲架	2016	C		桜庭文男	写真	デジタル プリント パネル	
11	桜庭文男	田代の四季3 秋・黄金色	2016	C		桜庭文男	写真	デジタル プリント パネル	
12	桜庭文男	田代の四季4 冬・雪景色	2016	C		桜庭文男	写真	デジタル プリント パネル	
13	桜庭文男	田代の四季5 阿部家の人々	2016	C		桜庭文男	写真	デジタル プリント パネル	
14	桜庭文男	田代の四季6 雪の祭	2016	C		桜庭文男	写真	デジタル プリント パネル	

15	桜庭文男	田代の四季7地蔵と雪	2016	C		桜庭文男	写真	デジタルプリント パネル		
16	桜庭文男	田代の四季8蔵	2016	C		桜庭文男	写真	デジタルプリント パネル		
17	桜庭文男	田代の四季9鞘堂の座敷	2016	C		桜庭文男	写真	デジタルプリント パネル		
18		稲架	2016		栗の木(8本使用)	鎌鼬の会	立体			
19		いたち			剥製	鎌鼬の会	立体			
20		稲穂	2016		植物	鎌鼬の会	立体			
21		飯詰め				鎌鼬の会	民具			
22	細江英公	鎌鼬7	2016	B/W		H300.0 × W400.0	KUAC	写真	デジタルプリント ターポリン	
23	細江英公	鎌鼬8	2016	B/W		H120.0 × W80.0	KUAC	写真	デジタルプリント ターポリン	
24	横尾忠則	〈土方巽と日本人—肉体の叛乱〉ポスター(土方巽手形付)	1968		シルクスクリーン	H102.6 × W72.8	KUAC	ポスター		
25	藤原峰	TASHIRO 循環と記憶	2016		デジタルデータ	16分32秒	KUAC	映像(動画)	ディスプレイ上映	
26	細江英公	写真集『鎌鼬』現代思潮社、1969年	1969		紙、インク	H43.0 × W34.0	KUAC	書籍		
27	細江英公	写真集『鎌鼬』青幻舎(復刻)	2005		紙、インク	H38.8 × W31.5	KUAC	書籍		
28	細江英公	細江英公写真集『鎌鼬』復刻英語版(Kamaitachi: Eikoh Hosoe, Aperture, 2005)	2005		紙、インク	H39.0 × W31.0	KUAC	書籍		
29	長谷山信介	長谷山家写真集					長谷山信介	写真アルバム		
30	細江英公	受賞記念写真	1970	B/W		H25.1 × W30.2	KUAC	写真	額装	
31	細江英公	「悲劇的な喜劇」展	1968		紙、インク	H42.0 × W29.7	KUAC	チラシ		
32	種村季弘	種村季弘文「肉体の叛乱」案内状(ガレメラ商会)	1968			H27.2 × W39.4	KUAC	案内状	シート	
33	細江英公	鎌鼬コンタクト帳	2016				KUAC		複写 拡大パネル(2枚)	
34	長谷山信介	長谷山家写真集	2016				KUAC		複写 デジタルプリント	
アート・アーカイヴ資料展 XVIII 土方巽、トリックスター／肉体の叛乱 1968 - 2018										
1	細江英公	馬鹿王の行進(『鎌鼬』より)	2018	B/W		H300.0 × W400.0	KUAC	写真	デジタルプリント ターポリン	制作: ラボ東京
2	種村季弘	肉体の叛乱	2018	B/W		H264.0 × W400.0	KUAC	印刷(言葉)	デジタルプリント 布	制作: ラボ東京
3	Choi Ka Fai	Unbearable darkness	2018		デジタルデータ	13分30秒	作家蔵	映像(動画)	投影(壁面)	制作: Choi Ka Fai
4	中村宏	〈土方巽の肉体の叛乱〉映像	1968		16ミリ	13分30秒	KUAC	映像(動画)	投影(壁面) 上映(モニター)	
5	土井典	模造男根	c.1987		FRP、人毛	H22.7 × W8.2 × D6.2	KUAC	立体		
6	中西夏之	足踏みフィゴ	c.1968		ミクストメディア	H37.0 × W17.0 × D13.5	KUAC	立体	ホース 483.0	
7	中村宏	8mm カメラ			カメラ	H13.5 × W14.2 × D6.2	KUAC	立体		
8	深瀬昌久	スイカを食う土方巽	1969	B/W		H19.7 × W25.2	KUAC	写真	プリント(オリジナル) 印画紙 A2	
9	深瀬昌久	白馬と土方巽	2018	B/W		H20.7 × W25.5	KUAC	写真	デジタルプリント 印画紙 A2	制作: ラボ東京
10	藤森秀郎	土方巽と阿部定	2018	B/W		H25.4 × W20.3	KUAC	写真	デジタルプリント 印画紙 A2	制作: ラボ東京
11	早田治	ピエタ	2018	B/W		H17.6 × W24.6	KUAC	写真	デジタルプリント 印画紙 A2	制作: ラボ東京
12		恐怖奇形人間	2018	B/W			KUAC	写真	デジタルプリント 印画紙 A2	制作: ラボ東京
13		誕生	2018	B/W		H15.9 × W22.2	KUAC	写真	デジタルプリント 印画紙 A2	制作: ラボ東京

14	細江英公	骨餓身峠死人葛	1970	B/W	H18.8 × W12.7	作家蔵	写真	デジタルプリント 紙・鏡面	HC0010035
15		白ウサギ	2018	剥製			立体		
16		芳名帳	1968	紙、鉛筆、リ ング	H28.5 × W22.4	KUAC	ノート		